

けんすい (No.4)



仙台市中学校教育研究会養護教育部会
研究推進委員会だより 2023/10/24
文責 研究推進委員長（東華中）

第2回研究会の講演内容に関する質疑応答

アンケートで寄せられた質問について、講師の大川先生から御回答をいただきました。

【質問1】

保健調査票のまとめに、ICT を活用できないかといつも悩んでいました。良い取組があれば、ご紹介いただきたいです。

⇒Google フォーム等のアンケート機能を使って、事前に保護者に調査票を配布し入力していただくことは可能だと思います。ただ、そのデータを個別に閲覧・確認する際に、タブレットだけでいいのか、個別に印刷する方がいいのかを考えると、場合によってはソフトの開発が必要になると思います。

【質問2】

SNS 相談やオンライン相談のデメリットがあれば教えてください。

⇒<メリット>

簡単にアクセスできるので、相談しやすい。文字で残るので読み返して考えられる。資料等のやりとりが簡単にできる。ウェブ上の資料を用いながら相談ができる。相談者のこれまでの相談履歴が参照できる。対応に困ったとき他の教員と協力して対応できる。こちらから積極的に情報発信ができる。

<デメリット>

非言語情報が得られない。言語能力が低い人の場合、相談が深まりにくい。教職員の共通理解が必要。

【質問3】

相談フォームで緊急性の高い生徒に対し、どういう風にアプローチをかけていったのか（本人はオンラインだから書いたのに…とならないのか）、匿名だと対応しきれないのではないかなど、実際に行ってみてのメリット・デメリットがあれば教えてください。もちろん自分でも調べてみます！

⇒緊急性の高い（いじめ、自殺念慮、暴力、虐待、性的被害、性犯罪、妊娠、誹謗中傷、心理的な被害、SNS 上で悪質な嫌がらせ等）、危機管理・危機対応につながるような内容は、速やかに対面の健康相談に切り替えることが大切だと思います。

⇒学校でのオンライン健康相談は匿名では難しいと思います。

【質問 4】

オンラインによる健康相談は、どのような時間に実施されているのでしょうか。本校では、内科・外科の来室者以外に、早いときでは勤務時間前から相談があったり、授業時間に来室したりする生徒も多いです。放課後は、教職員との情報共有や部活動のけがの対応が主で、保健の事務作業をする時間は、勤務時間が過ぎてからになってしまうこともあります。より多くの生徒に寄り添いたいと思っているため、実践されている養護教諭がどのような時間で実施されているのかを、ご存知であれば教えていただきたいです。

⇒基本的には、メールや SNS の場合は「すぐには返事ができない」「必ず〇日以内には返信する」、オンラインの場合は「〇曜日の放課後に限る」等のルールが必要だと思います。もちろん、緊急時には迅速な対応も必要になることもあると思います。

【質問 5】

オンライン健康相談と、実際の保健室における対応を、どのように両立されているのかが気になったところでした。個人情報の観点から、養護教諭は他の生徒に聞こえないような場所に対応しているのか、保健室にも気を配りながら、実際の現場でどのように活用しているのか、教えていただきたいです。

⇒放課後等に時間を決めて、実施されていることが多いと思います。

【質問 6】

大川先生がご紹介されていた「養護教諭のための ICT 活用術」を購入したいと思います。その前に、初心者向けの養護教諭の ICT 入門編などがありましたら、そこから始めたいと思いますので、情報をよろしくお願いします。

⇒月刊誌等で連載はされているとは思いますが、養護教諭関連で ICT 活用の本はなかなかないと思います。そのために上記の本を出版する予定です。